

社会科教師の授業構成能力育成に資する 授業研究協議会のあり方 ——「中学校社会科教育法Ⅱ」等の取り組みを通して——

胤 森 裕 暢*

1. はじめに

専門職である社会科教師が授業力を向上させるには、日々の実践を自ら吟味し改善してゆくだけでなく、他の教師と授業を吟味し合い、より良いものへと改善してゆく授業研究を行う¹⁾。

この方法は現職の教師教育はもとより、「学び続ける教師としての基礎的な資質や能力」を育成する養成段階においても有効と考えられている²⁾。したがって社会科教師を目指す者が、養成段階からこの方法を工夫してお互いの授業を吟味、改善し合い、この方法の基礎も身につけられるならば、入職期からの授業力向上の足がかりを得ることになる。

このため筆者は、大学の教職課程で担当する中学校社会科、公民科等教育学の授業の中に、模擬授業と協議会を段階的に組み込んできた。また、4年次後期「教職実践演習」には商業科、情報科の免許状取得を目指す学生も含め、校内授業研究の形式をとり入れた「授業研究演習」を行い、入職後に同僚らと授業研究協議会を行える力量形成を図ってきた³⁾。

しかし、そもそも形成しておくべき「社会科教師としての基礎的な資質や能力」とは何であり、その形成のためにいかに社会科教育学の視点から研究的な協議会を行い、深めればよいのか、これに先立つ教職学生による模擬授業と協議会はいかに行えばよいのかについては十分明

らかにしてこなかった。

本稿では、これらを明らかにしてゆくとともに、現職社会科教師が授業力を向上するのにより効果的な授業研究協議会のあり方、視点についても関連づけ考察しておきたい⁴⁾。なぜなら、養成段階における模擬授業と協議会のあり方には、現職教師による授業研究、特に授業研究協議会のあり方と共通する点が多くあり、連続した取組として考えられるからである⁵⁾。

2. 社会科教師の基礎的な資質・能力— 授業構成能力—

では、入職期から必要とされ、授業研究を通してその向上を図ることが求められる、「社会科教師としての基礎的な資質や能力」とは何であろうか。それは「社会認識を形成させ公民的資質を育成する力量」ともいえるが、絞り込めば社会科の「授業構成能力」であると考えられている⁶⁾。

それは、「より質の高い社会科の授業をつくる力」であり、特に授業を構成する力量であり、学習指導案を作成する能力がその中核にあると考えられる⁷⁾。これは、授業構成の事実をもって、ある程度、客観的にとらえることができ、向上する方法も示すことができると考えられている⁸⁾。すなわち、この力量を形成するための授業研究や協議会のあり方も明らかにしてゆくことができると考えられる。

* 広島経済大学経済学部教授

3. 社会科教育学による授業研究のあり方

では社会科教師が入職以降、常に求められる授業構成能力を形成してゆくための授業研究のあり方とはどのようなものか。

まず、社会科教育における授業研究である以上、社会科授業としての本質を検討し得るものでなくてはならない⁹⁾。すなわち目前の状況にどう対応すればよいかを生徒指導の視点から検討することに終始するのではなく、対象としている授業ないしは実践について、社会科としてのねらいや全体構造、指導計画を吟味し、課題を明らかにするものでなくてはならないとされる¹⁰⁾。

またその授業研究を通すことで、社会科教師が自分の実践を自覚的に厳しく吟味し、改善してゆく、さらには、そのための力量を高めることが期待される。なぜなら教師は日々、自らの実践を反省し、改善につなげようとするからである。ただし、常識的な授業理論や、既成の授業計画により実践を繰り返しても進歩できない。そこで社会科教育学による授業研究を通すことで、「社会科や授業についての考え方に基本的な誤りがあることに気づく」ことや、「授業を厳しく反省し、授業を改善し、授業計画を修正し授業理論を発展」させることが期待されるのである¹¹⁾。すなわち社会科の授業研究は、「教師の、授業をつくり、検討し、発展させていく活動に援助を与えること」が目的とされる¹²⁾。

もとより社会科授業は、子どもの社会認識を形成できているかどうか問われる。そのために、どう授業を構成しているか、すなわち、この時間に、どういう内容を、どういう方法で学習させていくのか、教師のかかえている授業構成論が問われ続けることになる¹³⁾。実践の中でも繰り返されているであろう教師自身の授業構成の吟味・修正を援助し、その授業構成能力を高め、「よりよい授業づくりに寄与していくこ

と」が授業研究には求められているのである¹⁴⁾。

ではそのための授業研究、特に研究協議は、どのように行われるとよいのだろうか。各自の授業実践がかかえている授業構成論を明らかにし、吟味して、改善への手がかりを与えるには、授業研究に参画する他者が批判できるように、なるべく客観的に表現された指導計画が必要である¹⁵⁾。それに基づいて実践しても上手くいかないこともあり得るが、その事実もよく記録しておけば、吟味・検討ができる。

こうして、授業研究に参画している他の教師が、容易に発問や指示の改善案を記したり、授業が行われた際の事実を書き込んだりして、後で共有化できるような学習指導案が授業者によって作成され、用意されること、その活用の仕方も含めて授業者の「意図や目的、その背後にある理論」まで説明され共有化されていることが重要となる¹⁶⁾。直前に配られた学習指導案が、いわゆる略案であり、その形式が共有されておらず、参加者がいかに気づきや事実を書き込めばよいか不案内なまま、研究授業を観察し、その後の協議に参加しても、せっかくの吟味・検討は深め切れない。なぜなら、計画されていた指導と事実のズレも、基底にあるはずの社会科教師の授業構成論も理解しにくく、表面的にうかがい知ようになるからである。

これらを整えている授業研究ならば、「授業・授業計画の検討過程で実践者の授業理論そのものに問題点が見い出されると、授業理論の吟味・検討がなされ、それはより体系的に整備された理論へと成長していく」ことが期待できる¹⁷⁾。すなわち教師が研究授業に込めている授業構成論にいた指導計画の吟味・検討が可能になってゆくと考えられる。

ただし森分が指摘するように、「実践者そして研究参加者が共有する授業理論を枠組みとする検討・修正に留まる」ならば、授業理論は成

長してゆかないことにも留意すべきである¹⁸⁾。研究協議の場が、対象としている社会科授業の持つ授業理論、特に授業構成の理論仮説も吟味・検討の俎上に載せる可能性を持っておくことが重要と考えられる。

4. 社会科教育学による授業研究協議会のあり方

では、社会科教師のための授業構成能力を育成するための授業研究協議会は、いかにあればよいのであろうか。これまでの考察をもとに整理すれば、例えば、次の表1のことを参加者が共有しておく必要があると考えられる。

これらは基本的なことのようでありながら、管見の限り、十分共有されていないと考えられる。

公開授業研究会のように学校を挙げて行われる場合や、特定のテーマに絞って協議が行われる場合、参加する教師の経験等がばらばらである場合などには、授業者による学習指導案や進行役による協議内容の文書を通じて、説明がなされておく方がよいと考える。特に④のように、授業構成能力の育成に深く関わる吟味・検討を行うには、授業者からも、進行役からも明確な説明が重要になると考える。

こうした教科の本質を踏まえ、授業者の授業

表1 社会科教育学による授業研究協議会で共有される事項例

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>① この研究協議会が、子どもによりよい社会認識を形成し、公民的資質を育成してゆくために行われるものであるという認識。</p> <p>② なるべく客観的に吟味・検討ができる、あるいは研究授業の事実や気づきを記録できる学習指導案。</p> <p>③ 授業をつくり、実践する授業者、もしくは進行役の教師からの研究授業の目的、学習内容や学習方法、すなわち授業構成論ないし授業理論についての説明。</p> <p>④ 授業に込められている授業理論、特に授業構成論についても協議会の吟味・検討の対象となり得ること。</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

構成論に挑戦していこうとする協議会は今後、社会科だけでなく、多くの教科の研究協議会で展開することが考えられる。なぜならば、これまでも学習指導要領改訂時には、それをふまえた授業研究協議会が活発に行われた。また次期改訂にあたって国は、「主体的・対話的で深い学び」を実現していくよう、授業研究等をもとに授業改善を進めることが強く求めている¹⁹⁾。特に「深い学び」の実現と関わり、「習得・活用・探究という学びの過程」の中で教科の「見方・考え方」を働かせることができているかを問うている²⁰⁾。

子どもたちに学習させたい内容とその具体的な方法のあり方、授業構成論ないしは授業理論をめぐる研究授業と研究協議会が必要になると考えられる。すなわち、教師が作成した学習指導案やそれによる研究授業をもとに、参加者が授業構成論のレベルでもゆさぶり合い、よりよい社会科授業づくりにつながる本質的な手がかりが得られるような研究授業と研究協議会が求められるようになると考えられる。

5. 教職課程における模擬授業と協議会の工夫・改善

5.1 教職課程における模擬授業と協議会の取り組み

こうした授業研究協議会のあり方により、教職課程の授業（現職教師による研修では研究授業と研究協議会に相当する模擬授業と協議会）において、どのような工夫・改善を行えばよいであろうか。筆者はすでに、段階的に模擬授業と協議会を組み込んだ授業実践を進めてきている。

基本的に、該当する教科目（社会科（公民的分野）、公民科「現代社会」「倫理」「政治・経済」）の学習指導案を作成させ、それを用いて模擬授業も協議会も進めるようになっている。協議会后、得られた課題点（含む改善策）を手

がかりにして、改善した学習指導案を最終授業回に提出させ、試験では、どのように改善したか論述させる問題を課している。

それぞれの概要と工夫を順に説明すれば次の通りである。

- ① 中学校社会科教育法Ⅰ（主対象者：2年次前期の中学校社会科教員免許状取得希望者）

A 作成する学習指導案の形式

1単位時間の略案を作成する。具体的内容は、本時の目標、教師による発問と生徒の回答なるべく詳細に示した学習指導過程、板書計画である。

B 学習指導案作成のガイド

作成にあたり、筆者が配布しその映像も視聴させた、優れた学習指導案をもとに、改善・開発するよう勧めている。これらは、個々の発問、発問構成の特色を説明して、手がかりとさせている。

C 模擬授業の手順

該当する教科書コピーとともに（生徒役でもある）参加者に配布してから行う。

模擬授業中は生徒役に多様な発言（ただし教科書コピーの記述内容を超えない限り）をするよう求める。協議会では、学習指導や個々の発問の工夫点、課題点（含む改善策）について参加者全員に発言させ、授業者と質疑応答させる。

- ② 中学校社会科教育法Ⅱ（主対象者：2年次後期の中学校社会科教員免許状取得希望者）

A 作成する学習指導案の形式

単元レベルの指導案を作成する。具体的内容は、単元計画（目標、評価規準、指導と評価の計画）、本時の目標、本時の評価規準、教師による発問と生徒の回答を示した学習指導過程、板書計画である。

B 学習指導案作成のガイド

作成にあたり、筆者が配布しその映像も視

聴させた、現行学習指導要領で新たに求められるようになった事項に挑戦している優れた学習指導案をもとに、改善・開発するよう勧めている。これらは、個々の発問、発問構成の特色を説明して、手がかりとさせている。

C 模擬授業の手順

該当する教科書コピーとともに（生徒役でもある）参加者に配布してから行う。

模擬授業中は生徒役に多様な発言（ただし教科書コピーの記述内容を超えない限り）をするよう求める。協議会では、学習指導よりも個々の発問および発問構成の工夫点、課題点（含む改善策）について参加者全員に発言させ、授業者と質疑応答させる。

- ③ 社会・公民科教育法（主対象者：3年次前期の中学校社会科教員免許状取得希望者、高等学校公民科教員免許状取得希望者）

A 作成する学習指導案の形式

単元レベルの指導案を詳細に作成する。具体的内容は、単元計画（目標、教材観・生徒観・指導観、評価規準、指導と評価の計画）、本時の目標、本時の評価規準、教師による発問と生徒の回答をなるべく詳細に示した学習指導過程、板書計画である。なお、公民科教員免許状のみ取得希望者は、初めて学習指導案作成に取り組むことを考慮し、教材観・生徒観・指導観は書かなくてもよいこととしている。

B 学習指導案作成のガイド

作成するにあたり、筆者が配布しその映像も視聴させた、優れた学習指導案をもとに、改善・開発するよう勧めている。これらは、個々の発問、発問構成、使用されている教材の特色を説明して、手がかりとさせている。

C 模擬授業の手順

該当する教科書コピーとともに（生徒役でもある）参加者に配布してから行う。

模擬授業中は生徒役に多様な発言（ただし

教科書コピーの記述内容を超えない限り）を
 するよう求める。協議会では、学習指導より
 も個々の発問および発問構成の工夫点、課題
 点（含む改善策）について参加者全員に発言
 させ、授業者と質疑応答させる。

④ 公民科教育法

A 作成する学習指導案の形式

単元レベルの指導案を詳細に作成する。具
 体的内容は、単元計画（目標、教材観・生徒
 観・指導観、評価規準、指導と評価の計画）、
 本時の目標、本時の評価規準、教師による発
 問と生徒の回答なるべく詳細に示した学習指
 導過程、板書計画である。

B 学習指導案作成のガイド

作成するにあたり、テキストに掲載されて
 いる中学校社会科公民的分野、公民科「現代
 社会」「倫理」「政治・経済」の学習指導案
 （いずれも筆者作成）、もしくは筆者が作成し
 た学術論文掲載の学習指導案をもとに、改
 善・開発するよう勧めている。

これらは発問構成、使用されている教材、
 そして背景にある授業構成上の特色を説明し
 て、手がかりとさせている。

C 模擬授業の手順

該当する教科書コピーとともに（生徒役で
 もある）参加者に配布してから行う。

模擬授業中は生徒役に多様な発言（ただし
 教科書コピーの記述内容を超えない限り）を
 するよう求める。協議会では、学習指導より
 も個々の発問および発問構成の工夫点、課題
 点（含む改善策）について参加者全員に発言
 させ、授業者と質疑応答させる。

⑤ 教育実習 I

A 作成する学習指導案の形式

単元レベルの指導案を詳細に作成させる。
 単元計画（目標、教材観・生徒観・指導観、
 評価規準、指導と評価の計画）、本時の目標、
 本時の評価規準、教師による発問と生徒の回

答なるべく詳細に示した学習指導過程、板書
 計画である。

B 学習指導案作成のガイド

特に無し。なお作成する範囲については、
 各自実習先で実習授業をするよう求められて
 いる教科書等の範囲により開発するよう勧め
 ている。

C 模擬授業の手順

該当する教科書コピーとともに（生徒役で
 もある）参加者に配布してから行う。

模擬授業中は生徒役に多様な発言（ただし
 教科書コピーの記述内容を超えない限り）を
 するよう求める。協議会では、学習指導より
 も個々の発問および発問構成の工夫点、課題
 点（含む改善策）について参加者全員に発言
 させ、授業者と質疑応答させる。

⑥ 教職実践演習

本演習では、これまでの模擬授業と協議会
 をふまえ、学生たちが主体的、連続的、発展
 的な授業研究としての模擬授業と協議会を行
 うことを通して、入職後に自ら授業力向上す
 る力を育成することを目指している²¹⁾。この
 ため、特に次のような形式、手順で行う。

A 作成する学習指導案の形式

単元レベルで詳細に作成する。単元計画
 （目標、教材観・生徒観・指導観、評価規準、
 指導と評価の計画）、本時の目標、本時の評
 価規準、教師による発問と生徒の回答なるべく
 詳細に示した学習指導過程、板書計画であ
 る。

B 学習指導案作成のガイド

作成するにあたっては、各自が実習先で実
 践してみて、優れた課題意識や、指導教員ら
 からの高い評価を得た学習指導案を改善す
 るよう求めている。

C 模擬授業の手順

a 該当する教科書コピーとともに（生徒役
 でもある）参加者に配布し、司会者の指示に

従って、授業構成や発問構成、教材等で工夫・改善した点や自らの課題点を説明させてから模擬授業を行う。

b 模擬授業中は生徒役に多様な発言（ただし教科書コピーの記述内容を超えない限り）をするよう求める。協議会では、学習指導および個々の発問および発問構成の工夫点、課題点（含む改善策）について参加者全員に発言させ、授業者と質疑応答させる。

c 協議会は司会進行も記録・報告も学生が行う。授業前に授業者が学習指導案をもとに、実習中の指導を踏まえて改善した点、授業後の協議会で議論して欲しい点を説明しており、司会者はその点を中心に、授業者に今回の授業を振り返らせる。次にその振り返りに沿って司会者は、参加者に今回の授業の工夫点と課題点（含む改善策）を発表させ、授業者に応答させ、協議を進める。

d 記録者は、参加者が付箋にまとめておいた課題点（含む改善策）を、次回の演習までに整理・分析し、次回演習時にレポートとして配布し振り返りを行う。

このように、筆者が担当する模擬授業では、段階的に高度な学習指導案を作成させ、それに基づいた協議会を進めている。学習指導の工夫など多様な議論から、学習内容・学習方法の工夫と課題について議論を深めるようになっている。

これらの模擬授業と協議会を指導の柱の一つにして、学生の授業力、また学校現場で自ら授業改善する力の育成を図ってきた。

学生の授業力に対する実習校の指導教員等からの評価は、直接的なものばかりではないが、授業について「がんばって授業をつくっている」、「われわれの指導によくついてきた」、「これだけ成長しているのは有り難い」といった評価をいただいていた。さらに、中学校や高等学

校に就職後も、「とても熱心に（授業づくりと実践に）取り組んでいる」との評価をいただいている。

しかしこうした評価や、何より学生自身の評価に社会科や公民科授業の授業構成論に関して、いかなる課題があり、改善しようとしているかを明確に論じたものは多くないを考える。

この要因として、模擬授業と協議会を行う時、学習内容・学習方法、あるいはこれらの要となる発問の視点から、協議を深めてゆく工夫がさらに求められると考えられる。学生たちが手にする学習指導案とそれによる模擬授業について、授業構成上の工夫や課題を、吟味・検討する協議会を改善できれば、より授業構成能力を育成できると考えられる。ひいてはその方法を、授業実践の場で広く活かすこともできるのではないか。

5.2 模擬授業と協議会の改善

では、授業構成能力を育成する視点から協議を深めさせるような模擬授業と協議会をいかに改善すればよいのか。

これまで筆者は講義の授業構成の考え方について、基本的な視点だけでなく、基本的な論点も整理し説明し、テストで論述させてみて、補足説明を加えてきた。また、模擬授業後の協議会で筆者が行う講評においても、その授業の事実を用いて具体的に解説してきた。

さらなる改善策としては、学生に授業構成の視点から自分たちの学習指導案と模擬授業の事実について説明や評価をさせてみるのが考えられる。

具体的には、模擬授業前の授業者からの学習指導案についての説明、模擬授業中の生徒役（観察者）からの評価的な発言、模擬授業後の授業者による自省、観察者（生徒役）による評価と授業者との協議、模擬授業・協議会後の出席カード等を用いた振り返り、さらにこれらを

ふまえ、テスト時に論述させる改善した学習指導案ポイントとして、授業構成の視点から論述させる機会を、段階的に組み込んでゆく。

例えば、「中学校社会科教育法Ⅰ」をふまえ、単元レベルの学習指導案を作成し模擬授業と協議会にのぞむ「中学校社会科教育法Ⅱ」参加者の出席カード等への記入事項として、次の表2のことが考えられる。

このような問いに回答させてみれば、(授業構成に深く関わる発問を通して、) その学生がどのレベルの社会認識を学習内容として扱おうとしているのか、いかなる学習方法を目指しているのかについて、指導する筆者だけでなく、学生たち自身も把握しやすくなる。また、これらを学生たちに説明しておけば、最終回に提出する改善学習指導案と、テストで解答する改善点の説明にも、授業構成上の課題点と改善点を記すことが期待できる。ひいては、続いて履修することになる「社会・公民科教育法」等で学習指導案を作成する時の課題も獲得させることができると考えられる。

表2 模擬授業参加者の記入事項

＜模擬授業者用＞

- ① 協議もふまえて、今日の模擬授業で、自分が大切にしたい発問は何ですか。
- ② その発問は、生徒にどのような学習内容(社会認識)を育てることを目指していますか。
- ③ その発問は、生徒にどのような学習方法(学び方)を育てることを目指していますか。
- ④ 他にどのような改善を試みたいですか。それはなぜですか。

＜生徒役・観察者・協議会参加者用＞

- ① 協議もふまえて、今日の模擬授業に関して、自分が試みてみたい発問は何ですか？
- ② その発問は、生徒にどのような学習内容(社会認識)を育てることを目指していますか。
- ③ その発問は、生徒にどのような学習方法(学び方)を育てることを目指していますか。
- ④ 他にどのような工夫を試みたいですか。それはなぜですか。

6. おわりに—現職社会科教師による授業研究協議会を改善する視点—

これまでの考察をふまえれば、社会科教育学による授業研究、特に授業研究協議会は、子どものよりすぐれた社会認識形成と公民的資質育成に資するよう、教師の授業構成能力形成、向上に寄与できるよう用意されることが重要と考えられる。なぜなら、いかなる社会認識を、どのように形成すればよいかという授業構成の問題は、入職以降、どの段階の教師にとっても主要な課題であり続け、教師個々の日常的な吟味によるだけでなく、他教師のすぐれた視点からの吟味・検討に載せ、協議してみることで、よりよい授業構成にもとづいた授業改善の手がかりを得やすくなると考えられるからである。

研究協議会の議論では、個々の教師が持っている授業構成の理論仮説に基づく、するどい吟味が行われ、互いの授業づくりに資する本質的な手がかりが育まれることが重要である。なぜなら教師は、社会科の本質をふまえた授業構成論をかかえ、よりよい実践をしようとするからである。特に学習指導要領の改訂をひかえ、社会科としての「深い学び」とは何か、社会科の「見方・考え方」を働かせながら学習させるとはどういう状態かについて議論が求められていることもある。社会科等の研究授業と協議会はそのための緊要な場となってゆくと考えられる。

授業構成という視点からより深い協議を行うことができ、参加者全員が、すぐれた吟味に参画でき、明日からの授業づくりについて本質的で重要な手がかりを持ち帰られることが、社会科等の授業研究協議会の主要な意味になることも考えられる。

上述した、教職課程における模擬授業と協議会の具体的改善策は、入職間もない社会科教師が、与えられる研究授業とその後の協議会の場を意味あるものにして、自らの社会科授業構成

の理論仮説を構築することを支え、改善してゆく視点を与えることができるであろうか。また、現場での社会科教師たちは授業研究を通じて、いかに授業構成能力を向上させているのだろうか。こうした点について今後、教職課程における模擬授業と協議会の実践と、社会科等教師による授業研究協議会への参画を通して、吟味し改善してゆきたい。

注

- 1) 棚橋健治「教師の共同的な授業研究を通じた授業づくり」全国社会科教育学会『新社会科授業づくりハンドブック』明治図書、2015年、p. 238参照。
- 2) 棚橋健治、同上書、p. 238参照。
- 3) 嵐森裕暢「授業研究協議会の形式を採用した『教職実践演習』の事例」『私立大学の特色ある教職課程事例集』、2014年5月、参照。
- 4) 森分孝治「授業研究の方法論的基礎」日本教育方法学会編『子どもの人間的自立と授業実践』明治図書、p. 185。森分は、社会科教育学の立場から授業研究を類型化し、それぞれのあり方を論じている。この中から本稿では、「教師の授業構成におけるフィードバック過程にかかわるものであり、なされた授業を分析・評価し改善案を示すことをねらいとする」授業研究のあり方、特に研究授業時の研究協議会のあり方について検討していく。
- 5) 嵐森裕暢、前掲書3。嵐森裕暢「校内研修としての授業研究の方向性：小中学校現場の取組の工夫から」『広島経済大学研究論集』第36巻第3号、2013年、pp. 57-59他参照。
- 6) 森分孝治「社会科教師の資質と専門性」教員養成大学・学部教官研究集会社会科教育部会編『社会科教育の理論と実践』東洋館出版社、1988年、pp. 50-55。
- 7) 同上書、pp. 50-55。
- 8) 同上書、p. 51参照。
- 9) 棚橋健治、前掲書1、p. 242参照。
- 10) 棚橋健治、前掲書1、p. 245参照。
- 11) 森分孝治、前掲書4、pp. 180-181。
- 12) 森分孝治、前掲書4、pp. 180-181。
- 13) 森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書、pp. 1、9、13他参照。
- 14) 森分孝治、前掲書4、p. 178。
- 15) 森分孝治、前掲書5、p. 54参照。森分は、教授計画書の方が、一般の学習指導案よりも、「授業において教師が何をなすべきかを具体的に示す」として、これによる吟味・検討を求めている。
- 16) 森分孝治、前掲書4、p. 186。
- 17) 森分孝治、前掲書4、p. 186。
- 18) 森分孝治、前掲書4、p. 187。
- 19) 文部科学省リーフレット「幼稚園教育要領、小・中学校学習指導要領等の改訂のポイント」、文部科学省 HP (www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/)、2017年9月30日確認。
- 20) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』、平成29年7月、p. 77参照。（「主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。」とし、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」である「見方・考え方」を働かせた、「より質の高い深い学び」を求めている。同書、p. 77。）
- 21) 嵐森、前掲書3他参照。

参考文献

- 池野範男「教師の授業力向上」全国社会科教育学会編『社会科教育実践ハンドブック』明治図書、2011年、pp. 233-236。
- 岩田昌太郎「教科教育の教師教育研究」日本教科教育学会編『教科教育研究ハンドブック—今日から役立つ研究手引き—』教育出版、2017年、pp. 154-159。
- 棚橋健治「第6章 教師の共同的な授業研究を通じた授業づくり」『新社会科授業づくりハンドブック』明治図書、2015年、pp. 237-245。
- 嵐森裕暢「地理歴史科・公民科教師による授業づくりを改善する研修の視点」『社会認識教育学研究』第31号、2016年、p. 1-10。
- 外山英昭「社会科教師としての資質と授業づくりの力量」日本社会科教育学会編『社会科教育研究』No. 64、1991年、pp. 45-58。
- 松尾正幸「§9 社会科教師とその教員養成の研究」全国社会科教育学会『社会科教育学研究ハンドブック』明治図書、pp. 162-169。
- 森分孝治「社会科授業研究入門」広島大学教育学部教育方法改善研究委員会『教職カリキュラムにおける理論と実習の統合に関する実証研究』、1987年、pp. 41-86。
- 渡邊 巧「アメリカ社会科における教員研修の思考と方法—社会科教師の資質・能力形成を視点として—」、2016年。